

# 足りない教室、カーテンで仕切り

## 特別支援学校

教室をカーテンで仕切り2クラス分に、他校の教室を借りて分教室に……。障害のある子どもたちが通う特別支援学校の過密化・教室不足が全国で深刻な問題になっています。

本吉真希記者

「カーテンの仕切りはあって無きがごとし。子どもは隣が何をしているのかわかたくなる」。東京都障がい児学校教職員組合委員長で、都立中野特別支援学校教諭の白瀬美弘さん(59)はため息交じりで話します。同校は1978年、小学部計97人で開校し、81年に高等部を開校。2012年の在校生は315人になり開校時の3倍以上です。教室が不足し、狭い教室も普通教室に転用しました。音楽や美術などいくつかの特別教室は残っていますが、図書室はなく、本を買った物がごみに入れて教室を巡回して回っています。

「一番困るのは運動の時間。体育館や校庭が限られ、分別がやらないとけかない。雨が降れば普段『危ないから走らない』と注意している廊下やスロープで運動しなければいけません。約130人の教職員は職員室に入りきれず、隣の校長室をつぶして広げました。

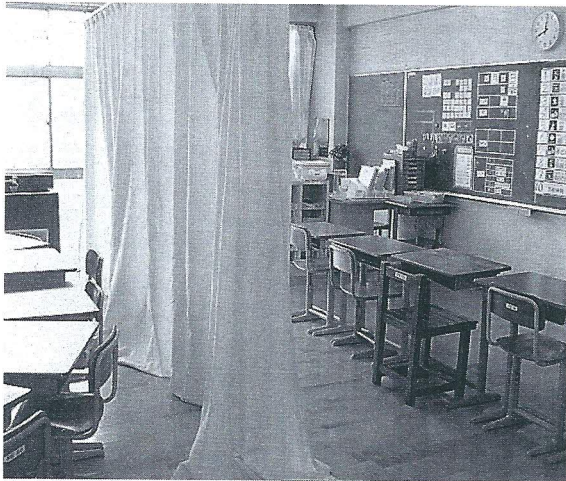


白瀬美弘さん

### 全国各地で運動

特別支援学校(盲ろう、聾盲(知的障害など)には「学校設置基準」がありません。そのことが最大の根本問題だと白瀬さん。「設置基準をつくり、教育環境を整えてほしい」と全国各地で運動が起きています。昨年11月には「障害児学校の設置基準策定を求め豊かな障害児教育の実現をめざす会」が結成されました。ところが文部科学省は「障害の状態に応じ必要となる施設や設備がさまざまであることから、一律の基準を設けることは困難」との見解を示し、劣悪な教育環境を黙認。教室不足解消の対応策として「分校・分教室」の設置を推奨しています。

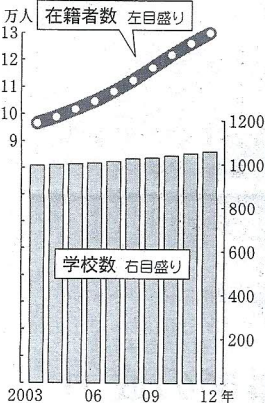
しかし、多くの分教室では本校の行事になかなか参加できず、給食やスクールバスも利用できないのが実態です。文科省によると、全国の



カーテンで仕切られた教室  
＝東京都内の特別支援学校

## 設置基準ないのは大問題

全国の特別支援学校の在籍数と学校数



2003 06 09 12年  
文部科学省の学校基本調査報告書(2012年5月)をもとに作成

### 共産党はこう考えます

日本共産党は2010年に「障害のある子どもたちの教育条件を改善するための緊急提案」を発表。特別支援学校の教室・教員不足の解消などの条件整備▽特別支援学級の抜本的な拡充一をすすめるなど、障害児の教育を受ける権利の保障を国会内外で求めています。



記者会見する「豊かな障害児教育を実現する会」代表の鳥居順子さん(中央)ら

特別支援学校の在籍数数は12年間で3万3521人の増加(1・35倍)に対し、学校数は64校の増加(1・06倍)です(グラフ)。11年の調査では456の教室が不足しています。それでも十分な対策を取ろうとしていません。また特別支援学校、特に高等部の子どもたちの増加の背景には、特別支援教育への理解の深まりがありま

### 保護者ら要望書

神奈川県は「緊急避難的措置として、高校の空き教室に分教室を設置。高等部で20の分教室が、間借り状態です。そのうえ、本来1学級8人の生徒は約2倍の

鳥居さんの子どもの春、中学2年になりました。先生は息子の成長をともに喜び、手を取りあってくれたと、学校に信頼を寄せてきました。鳥居さんはいいます。「まず現場を見てほしい。子どもたちと触れあい、体で感じてほしい。介助を受けるにはカーテンで仕切られたトイレに入るといふ、その恥ずかしさを知ってほしい。そのうえで議論し、予算を組んでほしい」

15人になっています。さらに県は「神奈川県教育を考える調査会」の中間まとめ(案)を公表(2月)。教育のあり方について経費の削減を前提に議論してきたことを明らかにしました。これに対し、保護者や教職員らでつくる「豊かな障害児教育を実現する会」は記者会見し、調査会構成員に要望書を提出(3月12日)。代表の鳥居順子さんは、同家が特別支援学校の過大規模化などへの対応が必要としながら「新増設や教育環境の改善に全く触れていないことは大変疑問」と憤ります。